



11月3日は、日本国憲法が公布されてから70年の記念日でした。日本国憲法は、国民生活の発展の土台となってきましたが、いま歴史的岐路に立たされています。

憲法公布70年 私の思い



マスコミがいつか来た道を 踏襲することを恐れる

マスコミが時の権力に媚び節操のないものであるかに、引き合いに出されるエピソードにナポレオンがエルバ島を脱出した時のフランスの新聞報道がある。

「殺人鬼エルバ島を脱出」、そしてマルセイユに到着したとき「ナポレオン、マルセイユに上陸」、パリ入城の時「皇帝陛下、ご帰還」。

日本の場合には「愛国教育」から「忠君愛国」そして、国のために命を捧げるまで進んだのに全然批判することなく「一億火の玉」「鬼畜米英」「本土決戦」と軍部以上に好戦気分をおおったマスコミ、敗戦となるや「一億総懺悔」「民主主義万歳」「平和を誓う」と手のひらを返す。

同じ人間が180度の転換。今度の教育基本法に「国を愛する態度を養う」と教育の目標が加えられた。マスコミが「いつか来た道を踏襲していつの間にか忠君愛国」「一億火の玉」と新聞紙上に掲載されるのを恐れる。

そしてそのマスコミに大きな影響を受けてしまう読者の進化しないのも恐れる。

花見 小林和

憲法を実感したのは

社会人になってから

昭和20年の生まれで、会染小学校、高瀬中学校に通いました。小学5、6年の担任は青年将校あがりですぐビンタを張り、中国大陸の戦争の手柄話が好きな教師でした。

中学でも「新しい憲法のはなし」を教わった記憶はありません。憲法を実感したのは社会人になってからです。とくに19条「思想・良心の自由」25条「健康で文化的生活を営む権利」について感銘を受けました。

kさん

第九条は忘れたことがない

私にとって日本国憲法といえ九条、基本的人権とか、思想信条の自由とか、大切なことは他にもあるけれど、第何条なのかは忘れている。

第九条、戦争の放棄は忘れたことがない。戦争のむごい事実を学んだ中学生の私は、この憲法で日本は安全なんだと思った。かつて戦争で庶民の命と暮らしが守られたことはないとと思う。

渋田見 太田幸代

地域交流センター実施設計

住民意見聴取に参加して

11月10日に「池田町地域交流センター実施設計」の住民意見聴取が開かれました。

設計会社の担当者が新しい図面を見ながら、7月の説明会以降に変更した部分について説明しました。

参加者からは「親子交流室や会議室を変更した意図がわからない、元のほうがいい」「緊急避難所にした場合、トイレの数が足りない。一定の炊事場が必要」「付帯設備はどうなるのか、特に照明・音響の説明がない」「図書館をどうするか議論は全くされていない。図書館法で定められている図書館協議会（教育委員会から7、8名任命されている）が、町民の声を聞く方法をとったかどうか」「図書館の学習机、読書机、ソファは十分か、少ない気がする」「説明が設計者だけで、町側から何の回答もない。設計の最終段階に入るのに担当者が説明できないようでは困る、町の施設を自分たちで造る気概を持つてほしい」などの声が出されました。

町側からは今年度中に図面を完成させるスケジュールは明らかにしましたが、具体的な疑問・質問に答えることはありませんでした。今後何十年も町民が利用する大切な施設です。町民が納得するよう何度でも、説明・意見交換が必要ではないでしょうか。

Ku

アメリカ大統領選と日本の将来

トランプ氏勝利は矛盾と行き詰まりの反映



アメリカ大統領選挙でトランプ候補が当選し、世界中に大きな衝撃が走りました。選挙中のテレビ討論では、政策論争そっちのけで中傷合戦が繰り返され、世界の最先端を自認する国の選挙かとあきれてしまいました。

数々の暴言を繰り返し、人種差別や反イスラム、反移民、女性蔑視発言など人間性を疑われる人物がなぜ支持されたのでしょうか。

新自由主義経済の市場原理第一主義、弱肉強食（レীগノミクス）政策によって、アメリカの産業空洞化、雇用不安、貧富の格差

拡大が深刻化、クリントン候補は富裕層既在政治の代表とみなされた結果とも指摘されています。

トランプ氏は、アメリカ第一主義、軍事費の分担拡大、TPP反対などを主張していました。日本に対する軍事費や色々の分野での負担増要求や、TPPが挫折しても日米2国間の自由貿易協定でもっと譲歩を迫ってくる可能性があります。

安倍政権は、アメリカからの兵器、武器の購入を大幅に増加させ、米軍基地建設を強行するなど、対米従属を強めています。従来どおりの対米追従外交ではなく、国民の声や国民生活を第一に、自主自律外交を確立することが要求されます。

渋田見 太田勅

聞いて！聞いて！ 読者のひろば

読者の皆様からの投稿をお待ちしております。文章、詩、短歌、俳句などなんでも結構です。

信州池田クラフト展に参加して

滝沢 帯刀 益夫

池田町の北アルプス展望美術館で、10月29日から11月6日まで、信州池田クラフト展が開催された。クラフト展はこれまでも何回か開催されてきたが、今回は、陶芸、ガラス、木工など、池田町を中心とする9名の作家たちの様々なジャンルの作品を展示するとともに、販売も行なわれた。

私は、これまで鑑賞者であったが、今回は作家として出品した。クラフト（工芸）は身近な生活用品として、「用の美」を求めるもので、鑑賞を主とする絵画などと違う特徴を持っている。現代は、多くのクラフトが工業的に大量生産されているが、日常的に使うものにこそ、作り手の気持ちや技を感じたいと願う人たちも増えている。

クラフト展は、こうした鑑賞者（使用者）と作り手の間の相互の情報の交流の場として大事だと思われ、実際今回は販売を可能にしたことで、作家たちはどんな作品



こころが聞きたい

Q：9条は理想だけど、それでは安全は守れないのでは？

A：「もめごとは軍事でなく外交で解決する」が世界の流れです。「軍事力頼み」が、アジアの平和をおびやかしています。憲法9条は、世界平和の道を照らしだしています。東南アジア諸国連合は「紛争を戦争にしない」「もめごとは外交で解決する」というルールで、地域の平和共同体をつくっています。この方式を北東アジアにも広げる、これが日本共産党の提案です。